

會  
本  
通  
籍  
志

42



繪本通寶志卷之八目錄

山水之部

山水之法

二十五品

遠近城郭法

四品

木石之法

二品

林木之法

七品

四時山水之法





徑山寺雪中之景

黃昏之系

高懸雪中望山

# 畫山水石法

夫山水天地万物始畫人骨筋也畫先岩木為專

一山石多作礮頭亦為凌面大斧小斧文理雨点

皴法各圖要見幽遠而氣雄崢嶸峻貌秀潤有

木樛枝挺榦屈節皴皮細裂多瑞分數萬狀陰陽

向背梅枝條老嫩或古松垂枝衆木平圓遠者疎平

○水湯々而若活為驚濤怒浪流曲折以至輕波

細溜蒼浪使人有浩然江湖思凡山木林木皆江

畫冊と見て呼海神意と云く者也



南風景有多樓觀舟舩水村漁市風總畫山水須

按四時景候分其遠近三遠法。象西湖金山焦

山廬山赤壁瀟湘八景等圖本躡而作千變万化

象深山大谷雲霞烟雲出沒或蔽樹木峯峦隱顯

皆山中草木氣雲山川氣也地氣上為雲霞赤氣

氣也雲霞烟雲出沒或蔽樹木峯峦隱顯山無雲若無春花山

無氣無神無神則不高其外風雨月雪各水墨曲

作其象茅舍斷橋危棧真山間景瀑布閑也飛泉

勢烈山陰寺棟木隱樓閣遠人橋屋筆勢強飛雁

風帆遠幽漁舟葦春蘆秋川岸水村芦間蓬舩或

檣為群或連或別何水邊景色也或浮雲宛若奇

峰山體貌烟霞為縹緲難寫狀用金碧輝映亦人

家間氣人烟也雪中無人煙是法若能別辨則知

山水之彷彿也觀其先看氣象後辨清濁總不限

山水看諸畫不可一途而取古人命意各有道蓋

古人筆法圓熟用意精到初若率易愈玩愈佳今

人雖極工緻一覽而意盡矣今以古書法圖之以

辨其事第一法曰丈山尺樹寸馬豆人也

今之馬豆人亦山水之大也



山水第一法丈山尺樹寸馬豆人  
其形行走止騎座言語負荷風雨或  
僧俗老若貴賤形象雖寫皆不分明形也



第二法  
遠人無目  
豆人形  
遠形非無目如無  
其形行走止騎座言語負荷風雨或  
僧俗老若貴賤形象雖寫皆不分明形也



騎



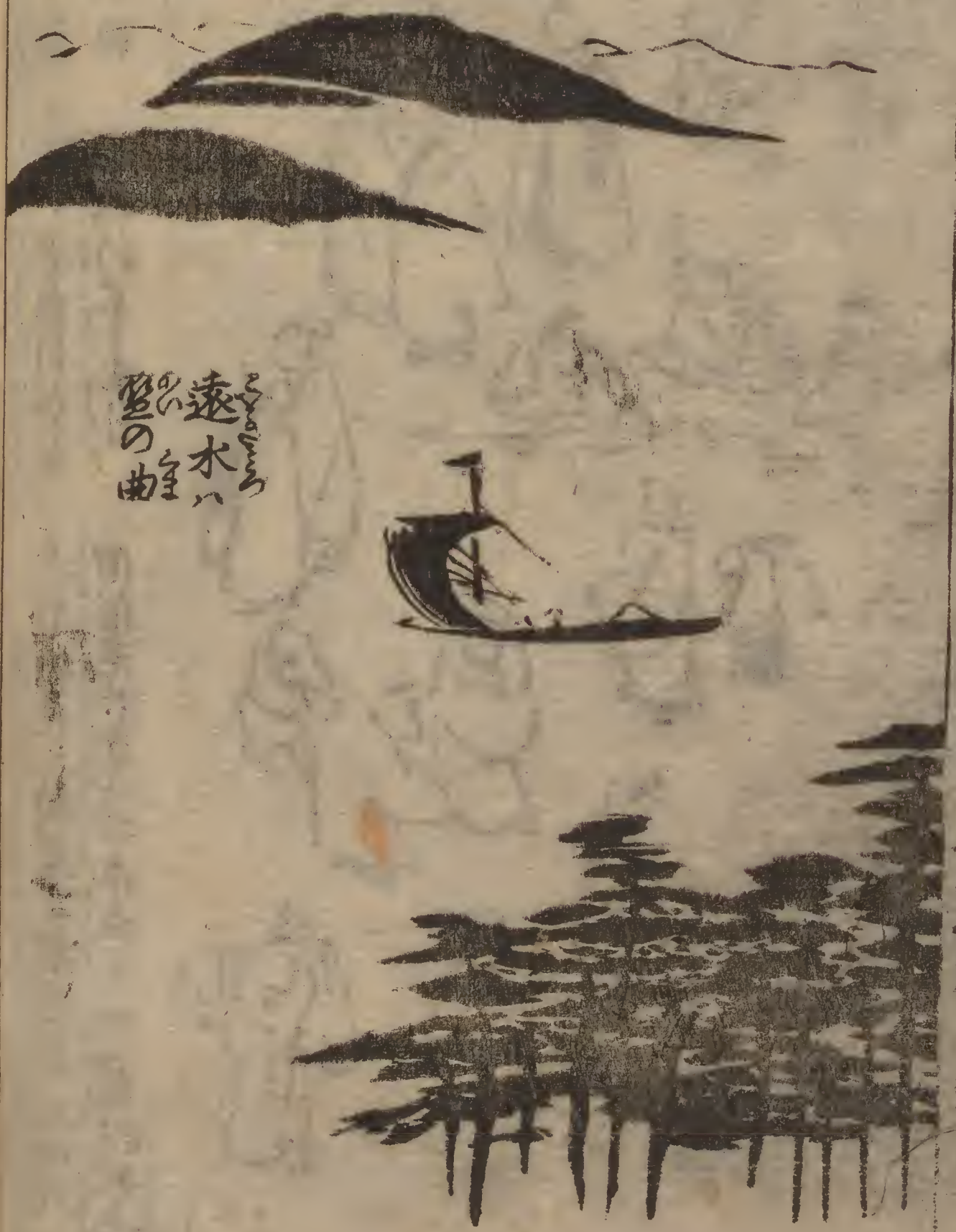
三 遠樹無枝 綠變而黑  
四 遠山無皴 隱々而如眉  
五 遠水無波 高と雲齊  
法

遠さ木ハ枝繁まらざる葉の目ハ枝あり  
遠さ山ハかすかに隱る谷ありかくさるるを  
雲麓と云ふるかたし白のありし  
遠さ水ハ先かたに波あり中へ波ありし

山水三遠法

遠さ山ハ  
形眉の如  
水雲の如

中山ハ遠さ  
糸為く道ハ  
遠さハあいの  
くま



遠水ハ  
盤の曲

水三遠之法

附 水蕩々而活  
象逆風揚濤

廣遠かんんと欲と其濤斷と因て則遠一近水ハ濤あり波あり  
遠さ水ハ波も濤も中へ濤ありし  
准さ物ハ中へ波あり片降ハ濤一平遠水ハ青汁の曲あり

遙さ遠水

遠水 無濤

近水 濤あり





第六法

山腰雲塞

石壁泉塞



山腰の雲を塞ぎ、石壁の泉を塞ぎ、  
石壁のけしきも、石壁のけしきも、  
石壁のけしきも、石壁のけしきも、  
石壁のけしきも、石壁のけしきも、

第八法  
樓閣樹塞  
道路人塞



樓閣の重閣ハ三重なりて、  
樹塞ハ、樹の葉を以て、  
道路人塞ハ、人々の往来を以て、

閣  
樓

往還

井

橋



第十卷 石看三面  
法路看兩岐

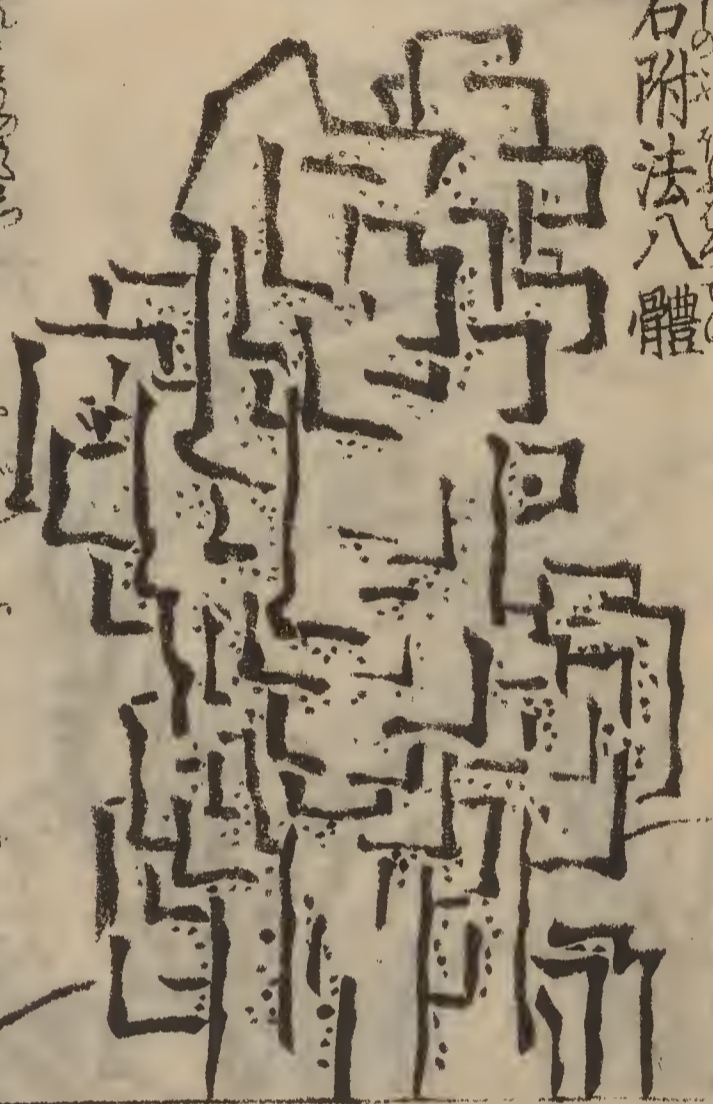
顛を左右し三方也石の類甚多し山石海石の別あり  
一切の物類も二面の法に用ひ別し不平  
木兩分かんて云面に畫し列るく土のささこ凹さの畫  
又土格の畫さるあり

大石の峙岩といふ 同物と磁石といふ



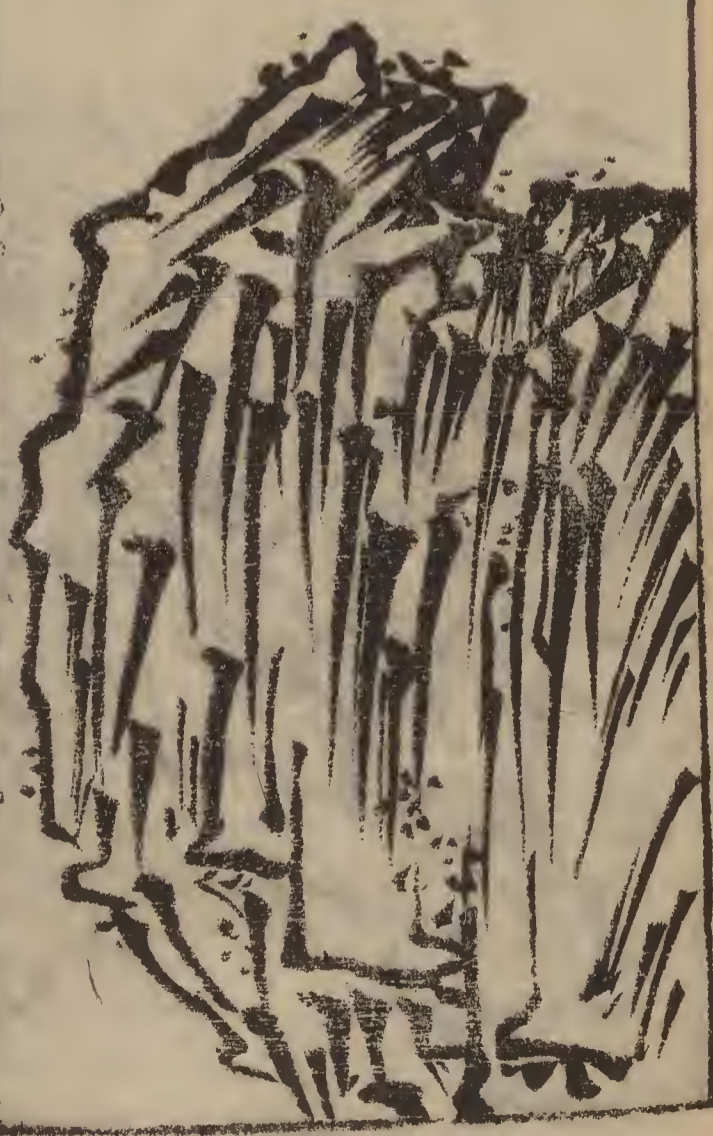
顛のまわり大石あり  
石のまわり大石あり  
顛のまわり大石あり

石附法八體



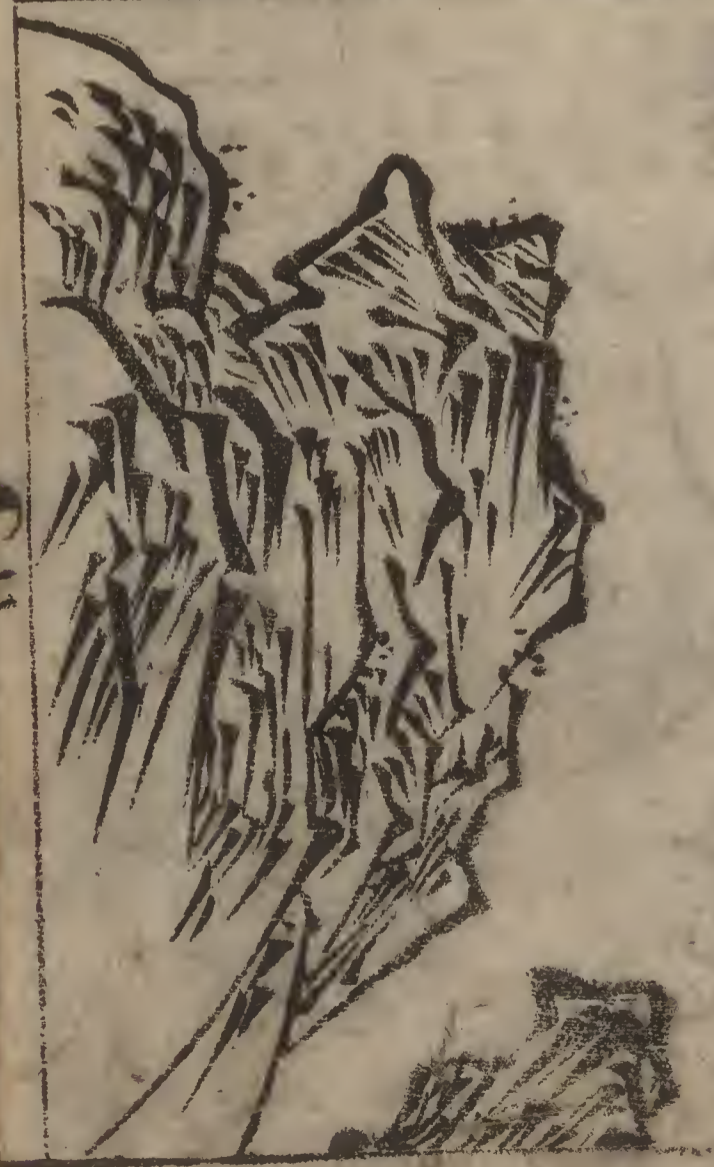
礮頭形 かつら明礮に似るゆへ名といふ

凌面渴 水の鏡に似る



大斧筆法 大斧さうり大打さうりめいじ

小斧筆法 小斧さうりさうりさうりわら

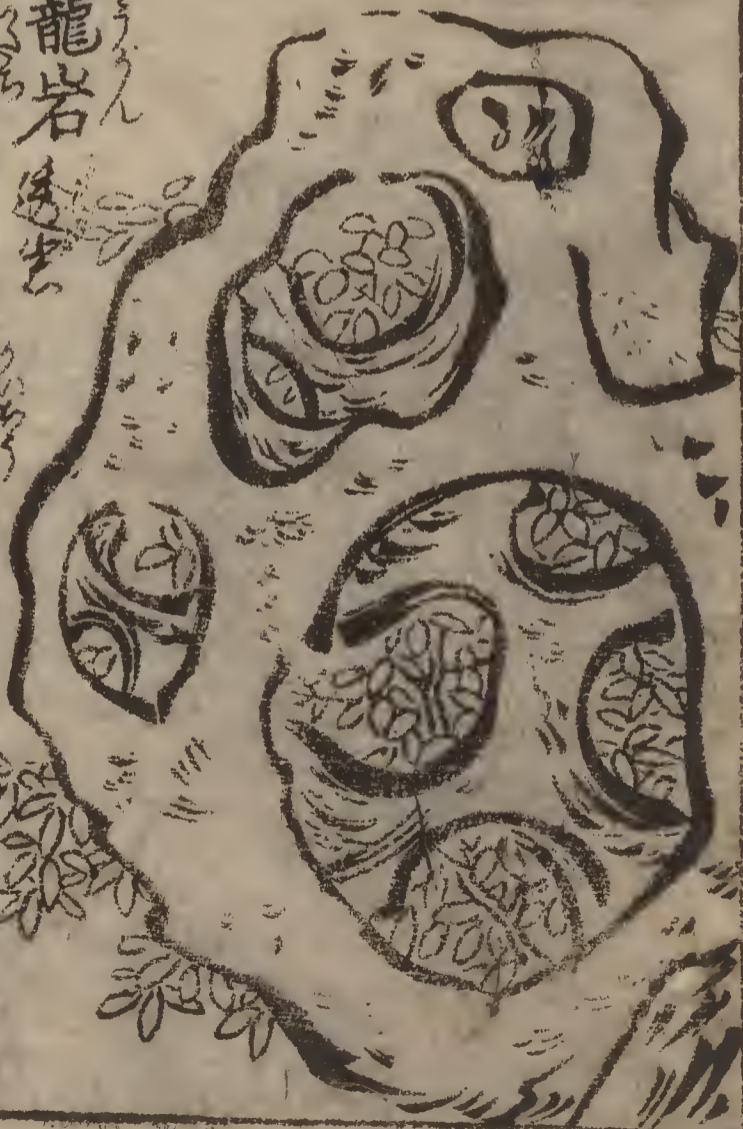






雨点章

雨のふりふりたるものあり



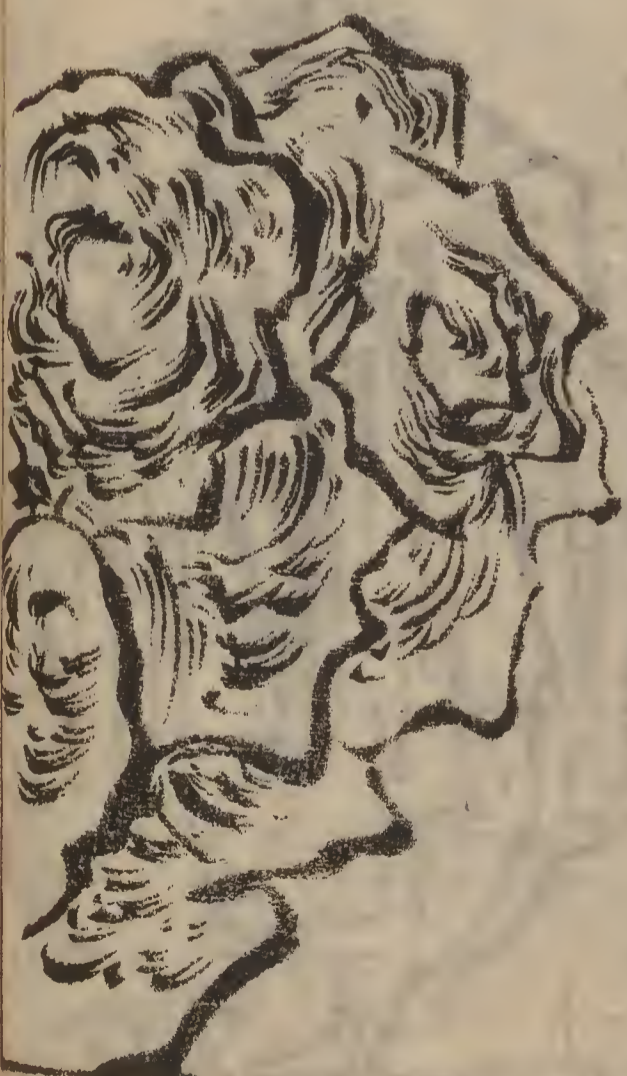
龍岩

形かどのもう海中のたるあり



麻皮被渴

あまのしんかきあまのあまのしんかき



雲章

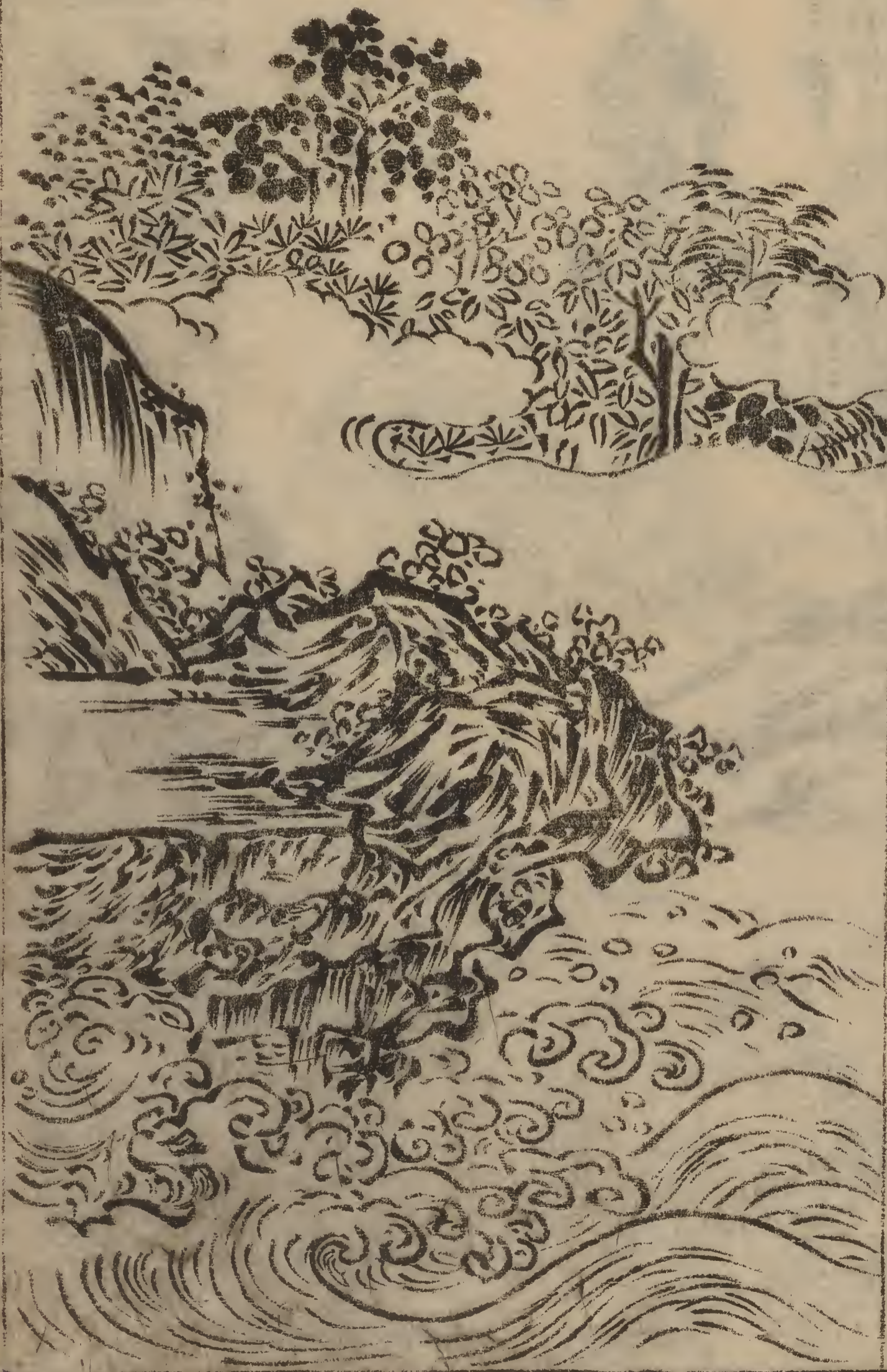
雲の面に雲のしんかきあり

第十二法

樹看頂顛

水看岸基

樹の形あり頂の形あり水の形あり岸の形あり





第十四法 尖峭者峯  
平夷者嶺

山の端也、ゆるく  
ゆるく、ゆるく  
ゆるく、大なり  
ゆるく、ゆるくあり

第十六法 峭壁者崖  
懸石者岩

山の端、ゆるく  
ゆるく、ゆるくあり  
山の端、ゆるく  
ゆるく、ゆるくあり

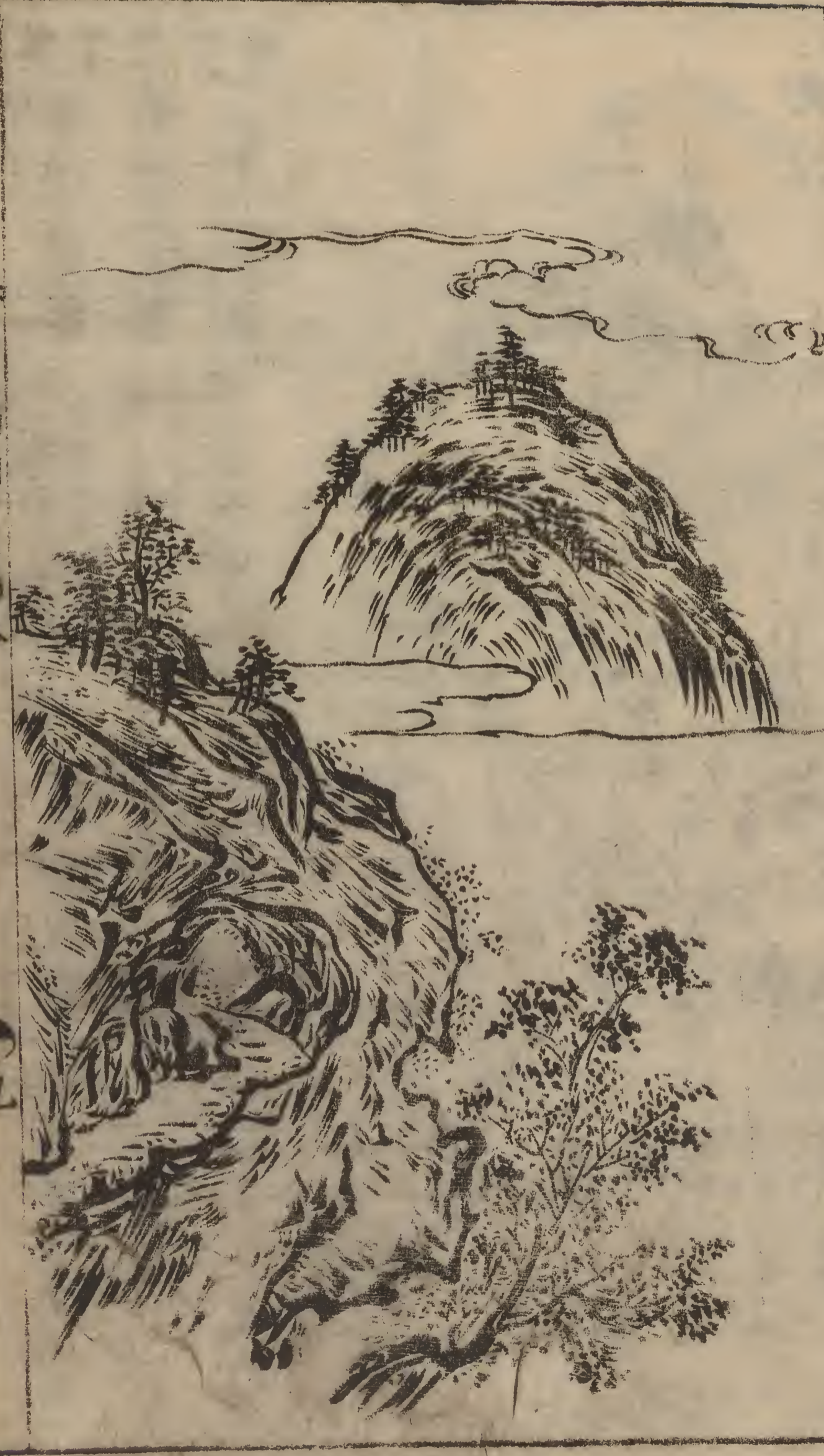


白く、ゆるくあり  
ゆるく、ゆるくあり  
ゆるく、ゆるくあり

麻皮、皺あり  
九信用之

第十八法 有穴者岫  
形圓者巖

山、穴あり、岫、ゆるくあり  
形、圓あり、山、ゆるくあり



山、ゆるくあり

九



第 兩山夾路經 經ハ峽あり山の間の  
 二 兩山夾水澗 澗ハ山のちとちあきくよ云  
 廿 水注川者澗 澗ハ溜漱集リ川よ入  
 廿三 泉通者谷路 谷のき水ありよ云  
 廿四 下土山者坂 坂ハ山のち  
 廿五 極目平者坂 坂ハ平なる地也



峽  
 二山よ  
 二山よ  
 二山よ



高然輝遠山  
 凡草山水  
 の達人也





遠山不得連近山  
遠水不得連近水

遠近能分則有風情  
遠近能分則有風情



分賓主之朝揖  
多則亂少則漫  
不多不少要知遠近  
列群峰之威儀

寫錦堂後山

寫錦堂後山





山腰回抱  
寺觀可安

山乃ありめなりて山とてく  
 ののふ寺をよとつるふは  
 りよすなり 寺はてく觀はく  
 くるものなり 山のまへにお  
 へる寺とてくふのまへに  
 おのちのちてくふのまへ  
 なるなり



斷岸乱提小橋可置  
有路處人行無處林木

断岸の乱提小橋を置  
 らばは橋とてく通と  
 なるなり 有路の處  
 人行無處林木なるなり



寫錦袋後編八

岸崖古木露根而藤纏

岸崖古木の露根に藤が纏りて古木の根を覆ふ



臨流石屏嵌空而有水痕

石屏屏風と云ふるおとれのおとれなり  
流川をのりておとれおとれの流の上へ大なる空のそひけり  
空の小空をのりておとれおとれの流の上へ大なる空のそひけり



寫錦袋後編八



凡畫林木

遠則疎平  
近則高密

遠則疎平 近則高密 凡畫林木 遠則疎平 近則高密 凡畫林木 遠則疎平 近則高密

遠之形疎也

平



有葉者枝柔  
無葉者枝硬

有葉者枝柔 無葉者枝硬 有葉者枝柔 無葉者枝硬 有葉者枝柔 無葉者枝硬







松皮似鱗

まつのうろはむつろころの  
 昔よりい老木あり枝降ゆよ葉は正面に刀の木の皮は  
 堅はうり又横は折る大木にある木は皮はうろこ  
 かくら龍のうろこふ似ころとりのふあり

松の木の皮は松皮のうろこ  
 こころあり

鳥羽文庫



老樹垂枝

古木節多而半死

死木墮衣

木の枝をへこののわら木ノ常あり年経ころ中枝降ちまあり  
 枯果ころ木は白皮まろなり秋を去葉おとら死木にありす

死木

鳥羽文庫

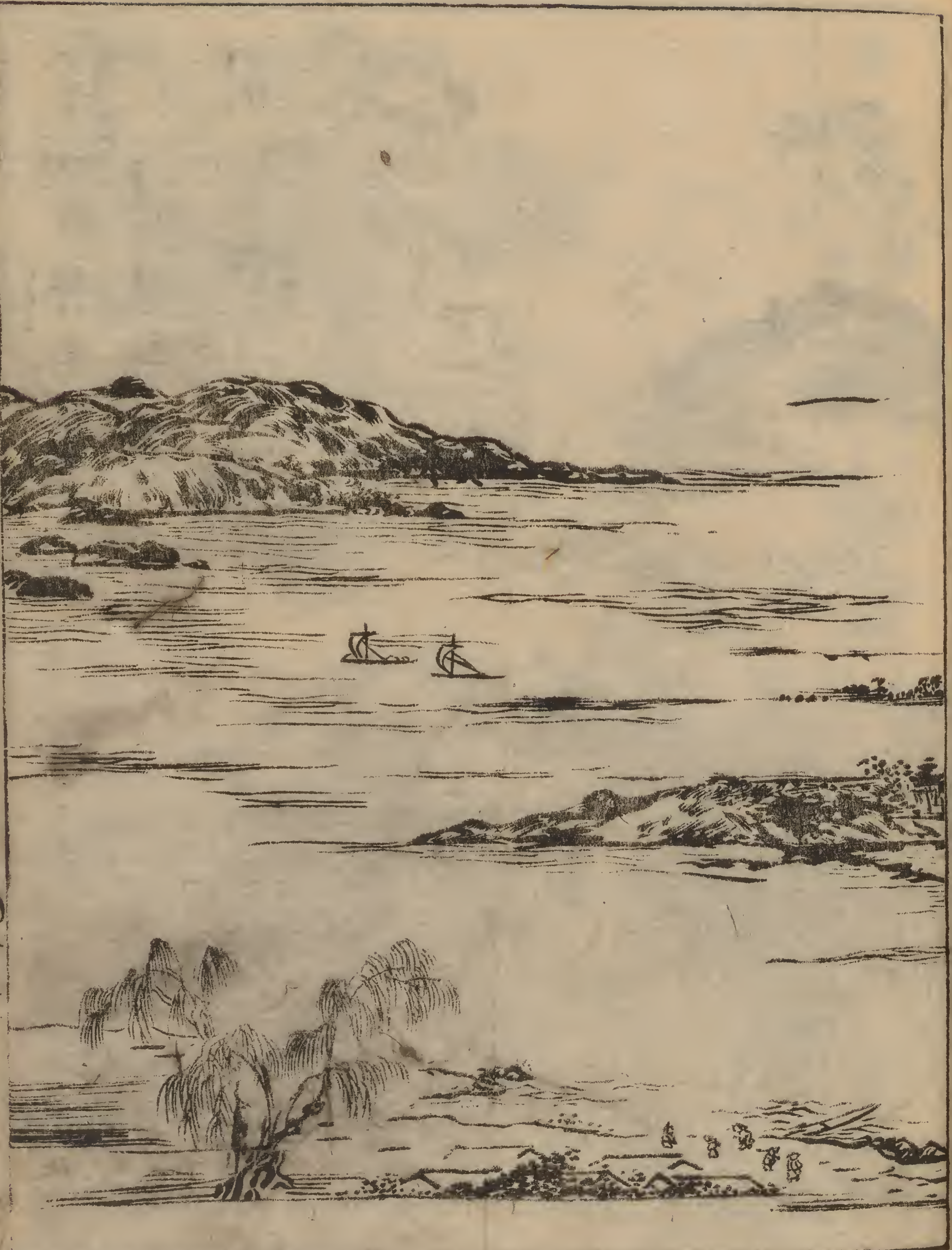
廿四







四時山水  
 春景 網ノ棚  
 霧消 炯籠  
 樹木 隠々  
 遠水 揉藍  
 山色 推青  
 早春の山は久し  
 びてしきと樹木は  
 くれとらていかり  
 とくさあいのとの  
 ころあつくあけさ  
 ていなり  
 山の久しきと樹木  
 くれとらていかり  
 とくさあいのとの  
 ころあつくあけさ  
 ていなり



四時山水

四時山水





同

穿雲瀑布  
近水幽亭

此景よりあつたきどりふとありさうめてさうさうりあつた  
くささうり流のやういふまづさうらんをさうりあつた



奇峰

夏景  
綠山  
奇峯

林木蔽天  
綠蕪平坂

この景はさうさうりあつたきどりふとありさうめてさうさうりあつた  
くささうり流のやういふまづさうらんをさうりあつた

寫金本後編

二



秋景 秋の山の黄

水天一色

簇々疎木

山の黄にこそさあやまは  
あはれなるこの秋の  
やうくくもくもく  
あふ木をばさひく  
水の雲ひくもく  
あはれなるこの  
くもくもく

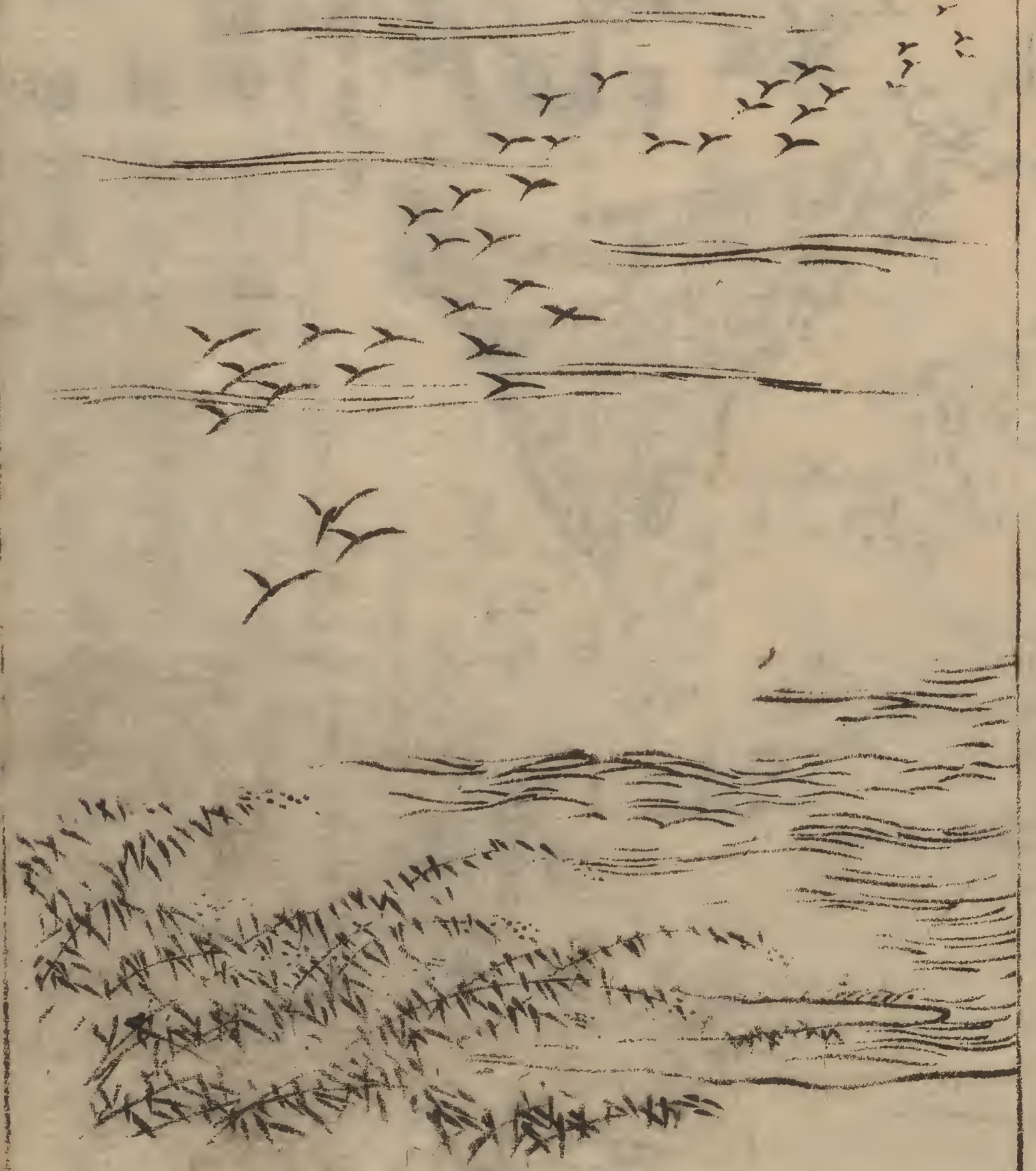


雁横焗塞

水色かきこむなるびさりくくくくくくくくくく  
かりのつらなりけりてふのよきり

芦島沙汀

海をさすくもく  
かりのゆりふ  
あはれなるこの  
あはれなるこの  
あはれなるこの







冬景 雪の白老

即地為雪老推負新漁舟傍岸  
水淺沙平凍雲黯淡酒旗孤村

雪の白老 推負 新漁舟 傍岸  
水淺沙平 凍雲 黯淡 酒旗 孤村



寫錦山後編



經山寺  
雪中景



寫錦山後編

十五









山東



高然輝  
雪中

重山

畫人名



細雪の山  
山東

高然輝 畫



